

くまのこだより



令和7(2025)年 1月6日(月)発行
赤磐市桜が丘東 6-6-704
さくらが丘保育園

『41歳を迎えるさくらが丘保育園』

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

昨年5月にさくらが丘保育園は満40歳を迎えました。そこで40年の間でさくらが丘保育園に関わりのある卒園児や旧職員に40歳のさくらが丘保育園に会いに来てもらおうと思い、年末に高校生以上の近隣に住所がある卒園児の家一軒一軒にハガキを配付いたしました。表札の名字が一致するとホッと、空き家と思われる家、また、建物がなくなっているところにあたると寂しさを感じ、知っていることものを思い浮かべながら配りました。40年の中でいろいろな変化がそれぞれの家庭にあることは当然のこと、その中で、卒園したこどもたちが一人ひとりの人生を歩んでしあわせにすごしていれば何よりです。

今年、5月には41歳を迎えるさくらが丘保育園です。40年前にできたことが時代の流れの中で規則化されできなくなったことがたくさんあります。しかし、40年前にはできなかったことで、今だからできることもたくさんあるはず。40年を振り返りながら、40年前に負けない「今だからできること」を追求していきたいと思ひます。

花房 由美

お知らせ

○施設評価アンケートを実施しています。

本日（1月7日）のおまかせ保育システムのお知らせで、おたよりを発信しています。みなさんからのご意見をお聞かせください。

今年は、回収率100%を目標にしていますので、ご協力をお願いします。

1月14日午前までにご回答がないご家庭にはお声がけをさせていただきます。
【締切：令和7年1月15日（水）】



みんなで追いかっこ。
「まてまてー！」

ゆずの足風呂温かいね



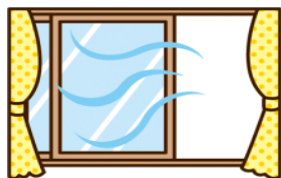
すずらんより

寒い時期のけがや病気に注意！

《こんなことに気を付けましょう》



転んだ時に頭を打たないように、ポケットに手を入れたまま歩かないようにしましょう



空気の入替えのために、1時間に1度、換気をしましょう



感染症にならないよう、人の多い場所ではマスクをつけましょう



感染症にならないように手洗い・うがいをこまめにしましょう



咳エチケットを守りましょう



乾燥しないよう加湿器等をつけましょう



早寝早起きをしましょう



私の好きな絵本

こどもの頃『ちいさいモモちゃん』シリーズが大好きでした。小学生になってからも弟に頼んで保育園の本の貸出日に借りて帰ってもらうぐらい好きでした。こどもの頃はこどもの目線で楽しむ、大人になってからはリアルな現実を読み解ける奥の深い児童書です。保育士になってから、そら組の午睡時読み聞かせをしました。♪あめこんこんふってるもん うそっただけどふってるもん…♪というモモちゃんが作った歌が印象的です。

花房 由美





『クラスで今！ブームのあそび① そら組』

午後の昼寝のない時間によく子どもたちが誘い合い、『だるまさんころんだ』をしています。ストップ＆ゴーでどんどんと鬼の近くに行き、ピタリと止まる子、ぐらぐらとなってしまう子、まばたきをして「〇〇くん目が動いたよ」と鬼に当てられる子、ときには鬼に当てられても「動いていないし」と言う子などさまざまです。

『クラスで今！ブームのあそび② にじ組』

今、にじ組でブームのあそびは、大きなカブごっこ。絵本の「うんとこしょどっこいしょ」のセリフをみんな一緒に大きな声で読んでいます。

実際にあそんでみようと、ロープをもってきて、各クラスを周りいろいろな職員にカブ役になってもらい、子どもたちが「うんとこしょ、どっこいしょ」と引っ張りました。

担任が手伝わなくても、保育者扮するカブが抜けることもあり、子どもたちの力が合わさると、こんなに大きな力になるのだと驚きました。



～集団あそび紹介～ 『だるまさんがころんだ』

1. 立候補、またはジャンケンなどで鬼を決めます。（少人数の場合は1人をおすすめしますが、大人数の場合は鬼を2～3人にしても面白いです）
2. 鬼とその他の人達が、反対方向に分かれます。その他の人達は鬼からできるだけ離れましょう。
3. 鬼は壁に頭を付けて、「だーるーまーさーんが、こーろんだっ！」と言います。
4. その間に、その他の人達はできるだけ今いる位置から、鬼の居る場所まで近づきます。
5. 鬼は「こーろんだ！」の「だ！」で、振り返ります。
6. 鬼の掛け声に合わせて、その他の人達は動きをストップします。
7. 鬼が、動いた人（失格になった人）の名前を呼びます。呼ばれた人は鬼と手を繋がします。
8. それを何度か繰り返します。
9. その他の人は鬼に近づいていき、鬼と鬼と手をつないでいる人の間に手を入れて、離してあげます。その時に「切った！」と言いましょう。もしも、失格になる人がいなかった場合は、鬼にタッチしましょ。
10. その他の人達は、鬼から逃げます。そして、鬼は誰か1人をつかまえます。
11. つかまった人が、次の鬼です。





花は咲く



そら組は、卒園に向けていろいろな準備が進んでいます。卒園記念の個人写真は、自分の好きな場所や遊具の所で、カメラマンに撮ってもらいます。

写真を撮られる子は、カメラマンに少し緊張気味で「え～いやだな」「したくない」と。私は「じゃあ、私がカメラマンの後ろに行くから、こっちを向いてね」と声を掛けました。しかし、まだ表情が硬いままだだったので、友だちも一緒に参加して、撮影に協力することになりました。

私と友だちが「撮りたくないのかな？」「違う場所で撮ってみる？」など声をかけていくと、少しずつ表情が柔らかく緩み、気に入る場所を一緒に探し、最後にはとびっきりのよい表情が撮れました。

そら組 土屋 勇気



園庭で遊ぶと毎回のように「赤い縄（大縄）を回して！」と保育者に声を掛けてきます。大縄は1人や2人で跳びたい子が多く、自分の順番が来るまで並んで待たなくてはなりません。部屋に入る時間になり「そろそろおしまいにしよっか」と声を掛けると、せっかく待ったのに跳ばずに終わってしまう…という気持ちもあるのか「まだやりたい」と列から離れようとしません。「じゃあ、みんなあと1回して終わる？」と尋ねてみると「イエ～イ！」と腕を伸ばしてジャンプして喜び、ルンルンで待っていました。その姿はとても可愛らしく、その後は1回飛んで納得したのか、スキップ風の足取りで部屋に入っていました。こどもと話をし、みんなが満足してあそびを終えることができ良かったなと思いました。

ほし組 下山 静菜



いちばんぼし





毎月、月の初めに朝の集まりで歌う曲を、数曲の候補の中から、こどもたちと一緒に決めています。今月はほとんどの子が「あわてんぼうのやつがいい」と手を挙げました。「なんでこの曲がいいの?」とこどもたちに聞いてみると「聞いたことあるから」「サンタさんがくるから」「この曲歌ってたらサンタさん気づいてくれるんじゃない?」と…。

“12月はサンタが来る”“サンタに気付いてもらわないといけない”と思っているこどもならではの発想に、かわいいなぁと心が暖かくなりました。また、みんなと一緒に決めた曲なので、身体を横に揺らしたり、身振り手振りをしたりしながら楽しそうに歌っています。その姿を見る度にこの曲にしてよかったなぁと感じます。

こどもたちと生活する中で、思いや発想が、面白かったりたり、驚いたりすることがよくあります。これからもこどもたちの思いをじっくり聴きながら、しっかりと受け止めていきたいです。

つき組 竹内 和羅



友だちがパズルであそんでいる姿を、近くでじーっと見ているAさん。どうしたのかな?としばらく様子を見ていましたが、ずっと友だちを見つめたまま動かないので、保育者が声を掛けました。

保育者:「どうしたの?」

Aさん:「・・・。」

保育者:「あそばないの?」

Aさん:「う〜ん」

保育者:「パズルしたかった?」

Aさん:「うん!」

保育者:「そっかぁ、パズルしたかったのか」

「Aさんに貸してって言うってみる?」

Aさん:「・・・(もじもじ)」

保育者:「一緒に言ってみようか?」

Aさん:「うん!」

保育者・Aさん:「パズルかして〜」

Bさん:「いいよ〜」

Aさんはその後、嬉しそうにパズルをしていました。言葉で言わなくても、仕草や表情、状況を読み、こどもたちの思いを引き出したり、言葉を添えたりしながら、しっかり寄り添いたいです。

にじ組 大森 航輝



にじのかけはし



現在、ゆきぐみでは「いやだ！」が大ブーム中。
やだやだマンがたくさんいます。

「お部屋に入ろう」「いやだ～！」

「トイレにいこう」「いや！」

「ご飯食べよう」「いらん！」

「あと少し食べてピカピカしようよ」「いやだよ～」

時には、抱っこする？と聞いても「いやだ！」

その後“あ、嫌だと言ってしまった…”と、ちょっぴり後悔して、おずおずと両手を広げるかわいい姿も。

「そっか～、嫌なのかぁ」と、こどもの思いを受け止めながらも、全てを思い通りにしてあげるのではなく、こちらの思いも言葉にして丁寧に伝え、こどもが納得して「いやだ！」を「いいよ！」に変えられるように、根気強く対話することを大切にしています。

こどもたちもちゃんと納得ができると、やだやだマンのスーツを脱ぎ、晴れやかな笑顔でまた遊びに走り出すのでした。

ゆき組 土屋裕香



少しずつ言葉も出てきていますが、身振りや泣いたり怒ったりして自分の気持ちを伝えようとしています。

友だちが使っている玩具が欲しくて「ちょうだい」と友だちが使っている玩具をひっぱると、相手の子は「いや」と怒ります。その子は諦めずに「ちょうだい」と泣きそうになりながらひっぱりますが貸してもらえません。保育者が「そのおもちゃが使いたいんだね。でも今〇〇ちゃんが使ってるからこっちはどうかな」と同じ玩具を渡すとニコニコしながら玩具を受け取り二人で仲良くあそんでいました。

こどもたちが何かを伝えようと、片言でも一生懸命喋っている姿に寄り添い、気持ちを受け止めていくことが大切だと感じました。

はな組 玉置七彩

全私保連保育運動
新しい時代は
子どもから

保護者の皆様へ 私たちが伝えたい7つのメッセージ



今回のメッセージは……

その1 子どもの思いを
受け止めましょう

0歳からのお子様をお預かりする保育施設では、保護者が未熟な年齢でもあるために、子ども一人ひとりの状況や表情を把握しながら、「こころ」や思いへの対応を行っています。

特に近年では、赤ちゃんが「泣く」という仕草にも何かを伝える意図があつて、「自ら思いを伝えようとする力を既に持っている」と語られています。また、片言の言葉を発する時期では、自分の思いを伝えようとしてもうまく伝えられなくて、ぐずったり、「いやいや」を連発することがあります。

このように、お友だちとの関わりが増えることで、意図のぶつかり合いに気付いたり、自分の思いを調整するようことを求められる場面も体験します。そのため、自分の思いを理解してもらえないことが大きなストレスになるのではないかと考えられます。

これらのことから、保育者は、正しいだけでなく、子どもたち一人ひとりの話を聞き、伝えたいこ



日常の保育の中でも、子ども同士で互いの思いを伝え合う姿を見守っています

とを整理することや、共感して思いに寄り添う言葉を日々行っています。

例えば……

乳児のオムツ交換の際には、「気持ち悪かったね」「交換してスッキリしたね」など。

幼児クラスでの子ども同士のトラブルなどで「○○ちゃんの思いはこうなんだね」「○○ちゃんはこれがイヤだったんだね」など、双方の思いを認めること。

こういった言葉を大切にしています。

一方、ご家庭では「親とわが子」という関係性から、やってあげることや失敗しないようにとの思いが先行してしまったり、保護者自身の経験や成功体験に基づいた声かけをいついつ押しつけてしまいがちではないでしょうか？

子どもの声を、率直に聞く、ということとは難しいと思われてしまうかもしれません。でも子どもは、自分の近くにいる存在である大人に自分のことをわかってほしいとの思いがあります。ぜひ、ご家庭でも、少し意識してお子様の声に耳を傾けてみてください。

子どもにとって、自分の思いを大人に聞いてもらえること、また、共感してもらえることだけでも、相手との信頼関係を持つことにつながります。大人も童心にかえり、目線を合わせて考えてみることで、子どもの言葉でやさしい思いに気づいたり、日々成長し「養える」力をつけている姿を発見できると思います。